

都市再生整備計画

きゅうし も だまち れ きし ぶん かさんさく だい かいへんこう
旧下田町歴史文化散策地区(第3回変更)

しずおか しもだし
静岡県 下田市

令和3年1月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	☐
都市再生整備計画事業	☒
まちなかウォークアブル推進事業	☐

目標及び計画期間

様式(1)-

都道府県名	静岡県	市町村名	下田市	地区名	旧下田町歴史文化散策地区	面積	45 ha
-------	-----	------	-----	-----	--------------	----	-------

計画期間	平成 30 年度 ~ 令和 4 年度	交付期間	平成 30 年度 ~ 令和 4 年度
------	--------------------	------	--------------------

目標
大目標:旧下田町の歴史や文化を感じる、散策して楽しいまちづくり 小目標 :歴史的風致を向上させて、歴史や文化を感じる空間をつくる 小目標 :駅やバス停、主要幹線道路から旧下田町中心部に人を呼び込む

目標設定の根拠
まちづくりの経緯及び現況 本地区は、伊豆急行線の終点である伊豆急下田駅に接していて、伊豆縦貫自動車道で建設が予定されている(仮)下田IC、(仮)敷根ICからも近いなど、交通の利便性がよい地区である。市民からは「まち」「まちなか」と呼ばれ下田市の中心的役割を担い、本地区の住民は「旧町内」、「旧町」と呼び、昭和30年に現下田市が下田町となる以前の下田町を意識として持ち続けている。また、「開国のまち」の舞台として、歴史の教科書に記載される有名な寺院が点在し、開国の歴史を訪ねて多くの人が訪れる。江戸末期から昭和初期にかけて建設された歴史的建造物が地区内に点在し、現代と過去とが混ざり合ったところが深い歴史を持つ旧下田町の特徴である。 また、下田のまちの構造は、整然と碁盤形に整備されているものの道幅は狭いところが特徴的である。夏に開催される下田八幡神社例大祭(下田太鼓祭り)の山車の幅はこの狭い通りに合わせてあり、このまちの景観が祭りを盛り上げる格好な舞台装置となっている。 このように本地区は周辺地区と異なる歴史文化を築いてきた貴重な地区であるが、商店数は減少(平成3年481件→平成27年212件)の一途を辿り、シャッター通りへの危惧と活力低下が懸念されている。また、地区内各所に残る歴史的建造物の取壊しは所有者に一任されており、年々価値ある建造物が解体されている状態である。 すでに、開国の舞台となった了仙寺をはじめとする来訪者が訪れるいくつかの施設はあるものの、来訪者の多くは自動車を最寄りの駐車場へ止めて目的地までの往復、電車で訪れた来訪者においてはメイン通りであるマイマイ通りの往復で、下田の歴史文化が見られる旧下田町中心部を散策する来訪者の姿はあまり見られない状況である。 平成12年度から16年度にかけてまちづくり総合支援事業を実施し、この時整備したペリー上陸記念公園は新たな歴史散策のポイントとなり、合わせて整備したみなと橋は、下田まちなかと近代につくられた港エリアとを結ぶ玄関となっている。近年では歴史的価値のある伊豆石を現代風に再利用したナンスヴィレッジ(民間施工)が建設されるなど新たな試みがなされている。そして花で来訪者を迎えようとハンギングバスケットを広めている地域住民もあり、来訪者を官民あげてもてなしている。 様々な取組が行われてきたが、年々空き店舗、空き地が増え、歴史的風致は損なわれており、来訪者が旧下田町の歴史文化を感じる空間づくりと、散策しやすい環境づくりが必要となっている。
課題
1. 旧下田町が持っている地区特有の歴史文化を後世に残し、来訪者がその歴史文化を感じることができるように、歴史的建造物の維持と活用と情報発信が必要である。 2. 伊豆縦貫自動車道のインターチェンジなどを利用して訪れた来訪者が、駐車場が見つからず迷うことなく、旧下田町の散策を始めることができる環境づくりが必要である。 3. 伊豆急下田駅や自家用車を利用して訪れた来訪者を、地区特有の歴史文化を感じることができる旧下田町中心部へ呼び込むことが必要である。
将来ビジョン(中長期)
[第4次下田市総合計画(平成23～32年)]将来都市像:自然と歴史を活かし、やすらぎと活力のある美しいまち。 [整備・開発及び保全の方針]地域ごとの市街地像:人々が集い、活動する場所の中心となる都市拠点。 [下田市都市計画マスタープラン]都市づくりのテーマ:下田の歴史、自然、文化に親しみ、住んでいくる、また来たくる都市をつくる。(中心市街地賑わいの方針:歴史や文化を肌で感じ、歩きたくなる、住みたくなる中心市街地にしよう) [下田市地域公共交通基本計画]基本理念と基本方針:市民、来訪者にとって使いやすい、使いたくなる公共交通の実現 [下田市歴史的風致維持向上計画(平成30年度完成予定)]下田市の歴史的建造物や伝統行事等、地域固有の風情、情緒、たたずまいを醸し出している良好な環境(歴史的風致)を維持及び向上させ、まちや暮らしの環境とその魅力を守り高めるとともに、後世に継承することを目的とし、歴史的風致維持向上施設の整備又は管理に関する事業などを定めている。

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
伊豆急下田駅の乗降人員	人/日	伊豆急下田駅を利用する1日平均乗降人員	旧下田町の魅力の向上により、伊豆急下田駅の日平均乗降人員の減少を抑止する。	3,000人/日	H28	3,000人/日	R4
旧下田町主要3施設入館者数	人/年	地区内の主要3施設年間入館者数	旧下田町の魅力の向上により来訪者数が増加し、年間入館者数が増加する。	108,000人/年	H28	112,000人/年	R4

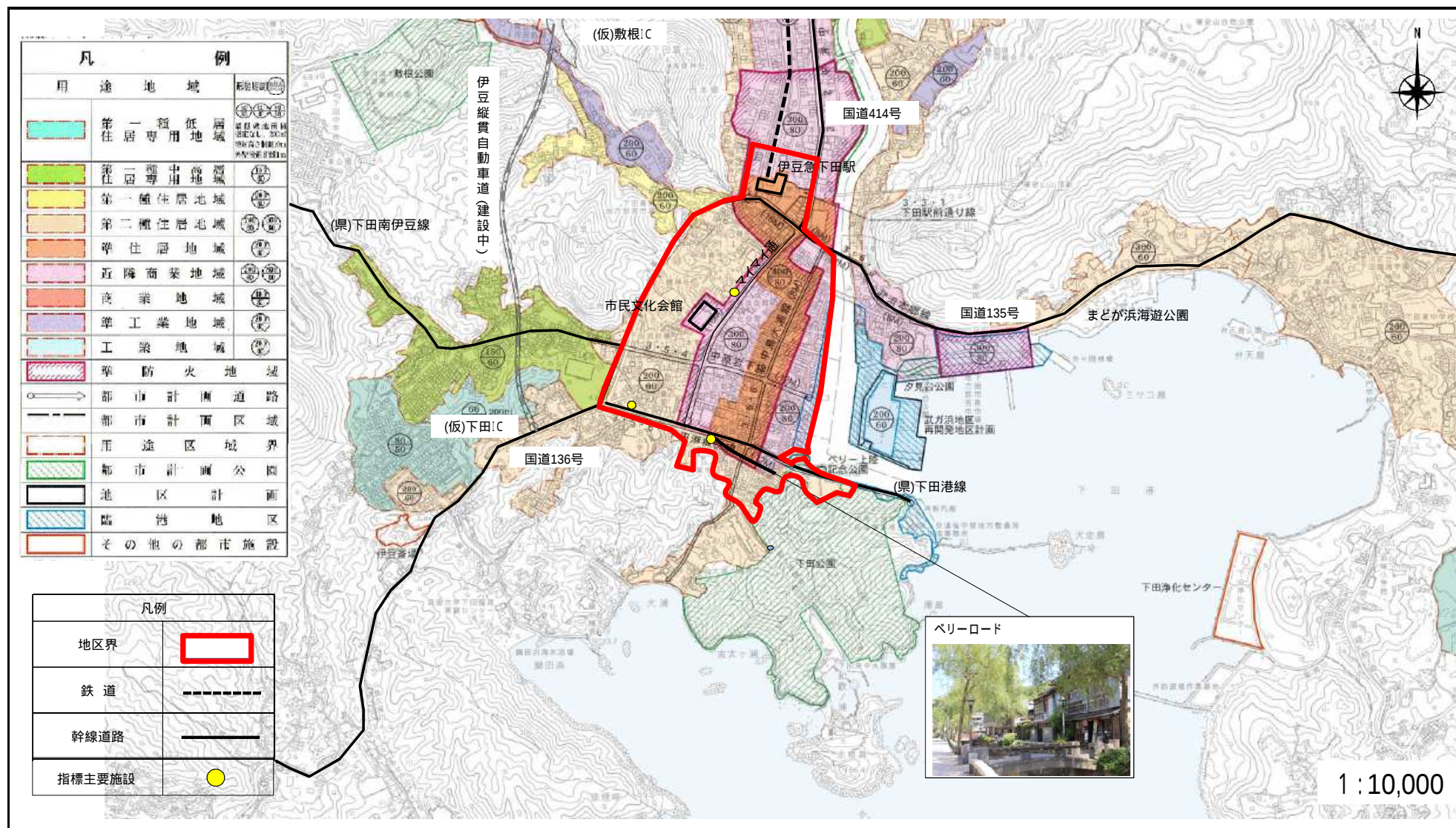
計画区域の整備方針		方針に合致する主要な事業
・下田太鼓祭りで使用する大川端の再整備や歴史的建造物を維持することで歴史文化を後世に残し、来訪者がおもてなしと歴史文化を感じ、旧下田町の歴史文化をイベントを通じて知ってもらえるきっかけづくりを行う。 ○市民ワークショップで来訪者に立ち寄ってもらいたいポイントとして挙げられていて、下田太鼓祭りで使用する大川端の再整備 ○下田の歴史文化など、地元の人があたりまえで気づいていない旧下田町の魅力を外部の人が伝えるイベントの実施		■基幹事業 ・既存建造物活用事業:市道大川端通線周辺整備 □提案事業 ・まちづくり活動推進事業:市民向けまちの魅力教えま塾 ・事業活用調査:事業効果分析調査 ○関連事業 街なみ環境整備事業
・自動車利用者が主要幹線道路から駐車場までたどり着き、散策を始めることができるように誘導する。 ○本地区をエリアとして認識してもらうための地区案内標識の設置 ○市民と来訪者の現在の駐車場の利用状況と散策経路との関係性を把握、駐車場誘導と散策誘導に関する分析調査 ○上記調査に基づいた施設の設置		■基幹事業 ・地域生活基盤施設(駐車場):駐車場整備 □提案事業 ・事業活用調査:駐車場利用調査
・現在来訪者が多く訪れている既存施設(ペリーロード、了仙寺、ナンプヴィレッジなど)から、中心部へ呼び込み、さらに散策しやすい環境をつくるため自動車交通の誘導を試行する。 ○散策路の休憩場所の設置 ○一方通行規制等の交通規制社会実験 ○伊豆急下田駅周辺の再整備		■基幹事業 ・公園:(仮)大工町公園 ・公園:(仮)平滑川公園 □提案事業 ・事業活用調査:交通規制社会実験 ・まちづくり活動推進事業:伊豆急下田駅周辺地区まちづくりPR ○関連事業 街なみ環境整備事業
その他		
【まちづくりの住民参加】 ・大川端の利活用については、官民で構成する「みなとまちゾーン活性化協議会」で検討している。また有志により「下田・本郷地域まちづくり実践会議」においても検討している。		

面積

45 ha

区域

下田市一丁目、二丁目、四丁目の全部と三丁目の一部



旧下田町歴史文化散策地区(静岡県下田市) 整備方針概要図(都市再生整備計画事業)

目標	大目標	旧下田町の歴史や文化を感じる、散策して楽しいまちづくり	代表的な指標	伊豆急下田駅の乗降人員 (人/日)	3,000 (平成28年度) → 3,000 (令和4年度)
	小目標	: 歴史的風致を向上させて、歴史や文化を感じる空間をつくる		旧下田町主要3施設入館者数 (人/年)	108,000 (平成28年度) → 112,000 (令和4年度)
	小目標	: 駅やバス停、主要幹線道路から旧下田町中心部に人を呼び込む		() ()	() 年度 → () 年度

